

# 地域おこし協力隊通信

第34回



リポーター：  
小林正英 隊員



(茂木の大椎・茂木505)  
茂木の  
大椎付近の  
手入れ前

皆さんこんにちは！地域おこし協力隊の小林です。突然ですが、皆さんはボランティアってしたことありますか？地域のために自発的に行動することって素晴らしいですよ。今回はそんなボランティア活動をしている「茂木地区お助け隊」のお話です。

牛堀地区にある二本松寺。以前は茂木地区にありました。現在、その場所には「茂木の太椎」というとても大きな木があります。昔は、周りがきちんと手入れされていて、その大椎も目立っていたのですが、左の写真を見て分かる通り、手入れが行き届かず、木々がうっそうと生い茂ってしまい、せつかくの大木がまったく見えないうち。この状況を何とかしたいと思って立ち上がったのが「茂木地区お助け隊」。会長である石神正好さんを筆頭に、ボランティアで周りの木々の手入れを始めました。

茂木地区お助け隊は、会長の石神正好さん、副会長の茂木智さん、そして茂木一弘さん、山口修一さん、石神一徳さんの5名で活動しており、普段は茂木に住んでいる高齢者の見守り



茂木地区お助け隊の方々

や、会館付近の花壇の手入れなどを行っています。石神会長は茂木の太椎付近の木々の手入れを始められた理由をこうおっしゃっていました「茂木の名所である大椎が隠れてしまうのは、非常に心苦しい。この活動をきっかけに多くの人に茂木という地区を知ってもらいたいから」と。

自分の地区を知ってもらいたいと思う気持ちに、協力隊である僕らとても共感し、この記事を書くことに。

実は、彼ら木々の手入れだけではなく、もう一つあることを行いました。石神会長達が映っている写真をみてください。後ろに鳥居が建っていますよね。実はこれ彼らが、ボランティアで一から建てたんです。すごいですよ。地域のためにここまで頑張っている姿をみると僕も潮来市地域おこし協力隊として、負けてられないなと思えました。ぜひこの記事をご覧の皆さんも茂木の太椎と鳥居を見に行ってみてください。

## まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

### 潮来市の誇れる自然

第71回

#### 水郷の魚たちージュズカケハゼ

3月半ばの水郷はまだ少し肌寒い日が続きます。丁度、2年前のこの季節に、私（小熊）は東京から潮来へと移ってきました「福島県出身ですが、東京での大学生活でハゼの仲間に興味され、大学院進学に伴って市内にある水圏環境フィールドステーション魚類研究室へと移籍」。大学院時代にはジュズカケハゼの研究をしていました。

ませんでした。

私が県央に位置する汽水湖の潤沼（ひぬま）で調査したところ、ジュズカケハゼは流入河川の河口付近の泥底で、塩分が低く、ヨシが繁茂しているところ（写真2）に局所的に生息しており、そのような場所で稚魚が食性を変えながら成長することもわかりました。しかし、潤沼でもそういった生息適地が開発によって減りつつあります。なかなか厳しい状況ではあります。本種が県内の水辺から姿を消してしまう前に、地域の方々と連携しながら、生息地の保全を急いで進めていきたいと考えています。

茨城大学大学院理工学研究科修士課程（水圏F S魚類学研究室所属）

小熊 進之介

では1990年代までは普通に漁獲され、佃煮の材料にも使われていました。護岸整備や外来魚の影響で減少し、最近ではごく稀にしか見られませんが、国や県の絶滅危惧種に選定されていますが、生態についてはよくわかってい



写真1：ジュズカケハゼの成魚（雌）



写真2：潤沼の流入河川のジュズカケハゼ生息地